

「ダントツの安全と品質を確立しよう!!」をスローガンに
さいたま市に本社移転を発表

アサヒロジスティクス経営計画発表会

アサヒロジスティクス(横塚元樹社長)は4月21日、東京・新宿区のハイアットリージェンシー東京で第62期経営発表会を開いた。この発表会は、同社の今後の経営方針と事業運営方針を同社社員に向けて発表し、併せて金融機関やトラック関連デイトラーなどの取引先を招き公表するもので毎年開いている。当日は取引先などから約120名と同社社員約180名が出席した。



発表会は3部制で、第1部では表彰式が行われ、自主管理経営・改善事例集優秀拠点として、運行部門では横浜共配センターが、作業部門では東京共配センターが、改善事例では松戸共配センターが各々表彰された。また、社会への善行に対して感謝をいただいた社員に対し、「アサヒの心」として、滑川、川越、吉見の各営業所と東京共配センターの各拠点が表彰された。さらに1年を通し優秀な成績を残したベストドライバー5名と5年・25年の水年勤続者が横塚社長から表彰された。

第2部では横塚社長より経営方針の説明が行われた。前期61期は会社の憲法というべき新経営理念を制定した。その内容は、日本の食生活を支える物流インフラ企業として、①日本一安全で品質の高いサービスを提供し、日本中の家族を豊かにする②CS・ES・CSを実現し、お客様と我々の生活を豊かにする③物流業界を、誰もが働きたいと思える憧れの業界にする——とし、「原点回帰」のスローガンのもと、アサヒブランドの確立に向けて行動してきた。売上高は、前年比117.6%の227億円、5年後の第66期(19年度)には「東日本のアサヒ」として、盤石な物流インフラを確立し、売上高320億円、経常利益率5%を目指すとしたが、そのような事業の繁栄・発展には成長拡大(売上増)と安定の両立が必要とした。人員も300名増え3500名となり、車両も900両を超え、また、仙台と川越、新潟に拠点を開設した。

次に62期の社長方針は、「スローガンを「ダントツのS&Qを確立しよう!!」とした。SはSafety(安全)、QはQuality(品質)で、盤石な物流インフラの完成を目指す上で、今期は今後の発展に向けた足場固めをする年とした。具体的には、「挨拶、明るく返事、ありがとう」と「整理、整頓、清潔、清掃、しつけ」の3A

5Sのレベルアップを回り、業務の改善として活動が現場できるマニュアルの作成とその活用・更新のフローの確立、運行・作業責任者による小集団活動の実施などを重点項目とした。また今期は、神奈川、秋田、北上の3営業所を開設する。6月には、埼玉県嵐山町の現本社をさいたま市大宮区に移転する。

続いて管理本部長の楠本聡取締役常務執行役員から、人材育成と人材確保についての管理本部の運営方針が示され、埼玉県滑川町にある約1万1500平方メートルの同社管理地内に、研修室やドライビングシミュレータ、テストコースを備えた新研修センターの建設を発表、人材育成、中型免許取得支援などを強化する。営業本部長の大石清貴執行役員からは営業本部の運営方針が示された。

最後に挨拶に立った横塚正秋会長は、「この発表会を始めて25年になるが、その頃の売上は20億円になるかならないか位だった。それが25年たった今、約200億円になった。今日の発表会で、横塚社長は皆さんに訴えていると同じ時に、自分に言い聞かせていると感じた。仕事は人生のゲームだ。遊びは飽きるが仕事は飽きない。今後は仕事を楽しく、そして楽しんでほしい。その結果、社会への貢献をして初めて人生に満足できる」と感想を述べた。



横塚社長(右)から表彰を受けた横塚会長



揃いのTシャツを着て花道を行く横塚会長

第3部の懇親会で挨拶に立った横塚社長は、「横塚会長が退任し、3月末をもち小川修副会長が特別顧問になり取締役を退任する。この二人の経営者がタッグを組んで引継ぎしてきたから今の会社がある。代表者として私ひとりでは会社を任せられませんが、私ひとりではない。素晴らしい社員がいてくれる。その仲間と共に会社を発展させていくのが私の役割だと感じている」と述べた。

懇親会の終了間際には、41年間、代表として会社を牽引してきた横塚会長に表彰状と社員の顔写真をモザイクにして同社のトラックをイメージしたパネルを、晶枝夫人には花束が贈られるハブニングがあり、さらに参加社員全員が横塚会長の似顔絵が入った赤い、まっちゃあきありがとう、Tシャツに着替えて花道をつくり、感謝を表した。